

公益社団法人日本天文学会 代議員総会議事録

日 時：2016年3月15日（火） 11:40-12:30

場 所：首都大学東京南大沢キャンパス D会場(1号館 201号室)

出席代議員：市川、井上、岡村、海部、河合、小久保、柴田、田村、半田、馬場、福井、望月、吉川、縣、犬塚、太田、寺澤、牧島、松下、観山、山田、吉田（直紀）、百瀬（以上23名）

欠席代議員：梅村、奥村、常田、吉田（道利）、渡部、櫻井、佐藤、杉山、土居、中川、林、嶺重（以上12名）

また、山下・中村庶務理事、柴田・熊谷会計理事、佐藤年会理事、佐藤事務長、黒岩事務長補佐が出席した。市川会長と半田・望月副会長は代議員を兼任している。

I. 確認事項など

議事に先立ち、出席者が23名、議長への委任状が7件、合計30件で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。前回代議員総（2016年1月10日）の議事録が文言の修正を加えて確認された。また定款に基づき、以下のとおり議長と署名人の確認がなされた。

議 長：市川 隆

署名人：市川 隆

II. 報告

II-2 理事会（2016年3月14日）報告（山下）

研究奨励賞と内地留学奨学金の賞金の原資が不足する場合に会費を充てることへの内規改正を承認した。衛星設計コンテストの委員について、松浦周二委員(ISAS)、谷津陽一委員(東京工業大学)の退任に伴い、松村知岳氏(JAXA)、川田光伸氏(JAXA)を新委員とすることを承認した。休会制度の休会期間を「原則として最長2年間」から「原則として最長3年間」に変更した。2016年秋季年会から通常セッションでの発表資格を正・準会員に限ることが決められた。2017年春季年会から電子投稿(LaTeX)に一本化することが決められた。天文遺産認定委員会(仮称)の内規案と研究奨励賞内規の5年以内の業績に限る制限の変更についての意見交換を行った。年会開催立候補を現在募集中であるがまだ立候補や問い合わせはない。研究奨励賞内規の議論に関して、さらに若手の研究者に与える発表賞のようなものがあるのではないかという意見が出た。

II-1 開催中の年会及び今後の年会準備進捗状況（佐藤）

669講演、参加者は昨日まで555名で、問題なく進んでいる。次回の年会の企

画セッションの募集を行った。次回の年会にから発表資格者は会員（正会員・準会員）のみとする。次々回の年会から講演申し込みを電子投稿のみとする。

II-2 天文遺産内規案について（資料 3、半田）

内規案について説明があった。認定対象を史跡・設備・文献とした。国際的連携はない。海外との連携について、IAU には World Astronomical Heritage があるのでそこへの推薦を視野に入れる、アジアとの連携も考えるべきなどの意見が出された。管理がずさんだったりした場合、認定取り消しなどする可能性はあるのかとの質問があったが、今のところ、認定取り消しは考えていない。

II-3 日本学術会議天文学・宇宙物理学分科会報告（観山）

3月2日に天文学・宇宙物理学分科会が開かれた。マスタープランの対応を決めた。今回は、計画を厳選して出すことにした。重点大型計画は、推進機関・母体がしっかりしており、コミュニティのサポートもあるような計画、20億円以下のものは推薦しない、大学の計画もよく考慮する、プロジェクトの実績のないものは今回考えない、などを重点に選定した。重点大型計画として LiteBIRD, SPICA、大型計画は SOLAR-C, Athena, 南極望遠鏡, SKA, DIOS, IceCube を選んだ。推薦を見送ったプロジェクトにはコメントを伝える予定。議論内容の公開についての質問に対して、議事録は HP には掲載されないが、議事メモを公表する。継続課題（区分2）としては TMT, CTA, KAGRA がある。

大学教育の質保証について、3月28日を締切りとしてパブリックコメントを求められている。

II-4 日本学術会議 IAU 報告（岡村）

IAU についての詳しい報告を会員全体集会で行う予定。

II-5 第4期代議員について（市川、山下）

来季からは在外代議員の参加のために TV 会議を導入する予定。

[資料リスト]

資料 1 代議員総会出欠表

資料 2 前回(2016年1月10日)代議員総会議事録確認

資料 3 天文遺産内規案

2016年3月15日

議長・署名人：市川 隆 印